令和６年度 日本大学文理学部付置研究所　所員個人研究費　研究実績報告書

所属・資格　　総合文化研究室・教授

申請者氏名　　野内　頼一

<table>
<tr><td colspan="2">研　究　課　題</td><td>学び続ける教師の研修の在り方の考察</td></tr>
<tr><td rowspan="3">報告の概要</td><td>研究目的および研究概要</td><td>「新たな教師の学びの姿」として、変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「主体的な姿勢」が求められている。中教審によると,「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子供たちの学びの転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要がある。」と記載されている。どのような研修が教師の主体的な姿勢を促すのか，研修センターの指導主事等と研修の在り方を議論して、試行的な研修を考案する。これからの時代に求められる，自ら学び続ける教員集団に必要なことは何かを明らかにして教職を目指す学生の講義に生かしていくことが研究目的である。</td></tr>
<tr><td>研究の結果</td><td>2021 年 6 月 5 日（土）第１回化学授業研究会（web）を開催してから現在（2025 年３月）まで，月に１回程度開催してすでに４８回を数えることとなった。コロナ禍が契機となり、どの会議でもズーム等による開催が当たり前のように行われ、時間や場所に縛られず議論することが可能な環境が整った。発足当初は化学授業研究会として開催していたが、徐々に理科全体に内容が広がり、現在は理科授業研究会として開催している。現在取り組んでいる研究は，単元全体の構想の中で探究の過程を踏まえた授業をどのように位置付け，どのように資質・能力の育成につなげていくのかについて,「単元の指導計画」に着目した学習プログラム及び評価方法を考案するものである。これまでに，①単元全体を見通し目的意識をもてるような授業を単元の指導計画の前半に位置付けること，②探究の過程を意識して主体的に取り組める単元の核となる授業を指導計画に位置付けること，の２点が重要であることが明らかになった。このような研究を基に教員研修に必要な要素を明らかにして，教員研修（茨城県，和歌山県，愛知県，岡崎市等）を指導主事と相談しながら企画して実践した。</td></tr>
<tr><td>研究の考察・反省</td><td>今後の教員研修については，単元の指導計画だけでなく，(1)生徒の学びにおいて単元と単元とを繋ぐ意義は何か，(2)生徒にとって理科を学ぶ重要性とは何か，(3)生徒は探究の過程が繰り返されて次の学びに繋がっていることを認識しているか，(4)生徒が振り返って学んだことを別の単元でも生かそうとしているか，との四つの視点から「年間の指導計画」に着目して学習プログラムや評価方法を考案する必要性があると考える。</td></tr>
<tr><td colspan="2">研究発表
学会名
発表テーマ
年月日／場所

研究成果物
テーマ
誌名
巻・号
発行年月日
発行所・者</td><td>研究発表
日本理科教育学会全国大会発表論文集第 22 号、ｐ288（2024 年）
「高等学校における単元の指導計画の構築に向けてー単元の指導計画を構築する際の着眼点の適用」
2024 年 9 月 7 日／滋賀大学

研究成果物
「学習指導要領改訂と化学教育の方向性」
化学と教育
72 巻 7 号，ｐ283-284
2024 年 7 月 20 日
公益社団法人日本化学会</td></tr>
</table>